

意見聴取会 意見陳述申込書

天塩川流域委員会 御中

天塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し出します。

平成 17 年 3 月 21 日

1. 意見陳述申込者

氏 名 _____

年齢 60 歳 _____

性別 男 _____

住 所 旭川市 _____

2. 意 見

要旨…サンルダムの建設はサンル川の自然破壊をもたらすとともに、天塩川水系の生態系に大きな影響を与える可能性が高いのに対し、ダム建設による治水効果、費用対効果、地域振興効果等は低いと考えられることから、ダム建設に替わる「緑のダム」としての森林整備、遊水池、河川改修等を総合的に勘案した流域全体の総合対策に切り替えること。

要点…①治水は流域住民の生命・財産・生活・文化等を保全する上で極めて重要な要素であるが、これまでのような河川の人工構造物による“水の閉じこめ方式”の治水対策では限界があり、川のエネルギーや働きを重視した“水の開放方式”に切り替えていくべきであること。

②ダムの建設を必須対策としている河川の多くが、過大な「基本高水流量」を基に最大流量の振り分けをしていることが、専門家からも少なからず指摘されており、改めてサンルダムの場合についても再検証のしくみが必要であること。

③近年、ダム建設による河水の汚濁、河床の低下、河岸浸食、泥水による河川生物への影響、河口における栄養塩類の不足、海岸浸食等が問題になっており、新たな大型ダムの建設は生物多様性を含めた自然環境の保全に逆行する可能性が大きいこと。

④森林の整備を中心とした「緑のダム」の治水上の効果は、これまで数値化（定量化）することが難しいとして治水計画に明確に組み入れられることがなかったが、最近ではコンピュータの発達や地理情報システムの充実、流量解析法の発展によって流域レベルでの定量的な議論ができるまでになっているといわれている。採用には時間的な推移も必要だが、吉野川流域ビジョン 21 委員会の事例もあり、前向きな検討が必要であること。

⑤近年のダム技術が 100 年未満技術といわれるように、近い将来、治水・利水の機能、環境コスト、適地払底、維持管理・処理コストなど様々な面で負担とリスクを背負うことは明らかである。日本の伝統的な河川技術あるいは中国の「都江堰」に習う 1000 年技術への転換が必要であること。

⑥昨年の新潟・福島豪雨（7 月）、福井豪雨（8 月）などの記録的な集中豪雨による大規模な深層崩壊型の山崩れに象徴的に現れているように、温暖化に伴うこれまでの想定を超えた災害に対し、ダムと堤防で制御する河道主義では破綻することは目に見えており、「緑のダム」を含めた総合的な対策が必要であること。